

団体の概要書

団体名	(ふりがな) とくていひえいりかつどうほうじん ちゃいるず 特定非営利活動法人チャイルズ		
主たる事務所の所在地	〒555-0033 大阪市西淀川区姫島 3-4-34-1104		
代表者氏名	(ふりがな) これさわ 是澤 ゆかり	構成員数	62 人
設立(活動開始)年月	2003年 1月	NPO法人 認証年月	2007年 9月
主な活動地域	大阪市全域		
ホームページの有無	○(有) (URL http://www.webchilds.com/) / 無		
団体の設立経緯	<p>「知的障害児の明日を考える会チャイルズ」は、平成15年1月、大阪市内において、自閉症児の親の会の勉強会として第一回会合を持ち、以後今日に至るまで4年数ヶ月にわたって、月に一度の障害児への対応を学ぶ研修や、地域に向けての講演・啓発活動を実施、また年に一度のボランティアを交えた余暇支援活動の実施、そして自閉症とその周辺障害を持つ保護者団体や障害児に関わる事業所、行政職員等とのネットワークを築いてきた。</p> <p>1つの通園施設の出身者という小さな集まりからスタートした当会であったが、時間を経るにしたがって所属人数は60名を超え、地域も大阪市全域に広がっている。いまや大阪市内における当会の役割は、非常に大きいものとなり、今後は将来に渡り継続して活動していく法人としての活動を目指し、2007年5月、特定非営利活動法人の申請書類を提出。これまでの活動を基盤にし、新たに、ピアカウンセリング事業、自閉症及び発達障害等に関する親の会の支援事業、自閉症及び発達障害等に関する講師派遣事業も開始。一層の啓発活動、新たな相談業務、子育て支援業務にも着手し、広く受益者のある社会貢献と福祉の増進に寄与することを目的として、活動の幅を広げた。</p>		
これまでの主な活動実績	<p>H16・6月「自閉症の人たちと生きるということ」丸岡玲子氏・大西俊介氏 参加者 198名 7月「障害を持つ子どもの教育へこれまで&これから」澤月子先生(養護学校教諭) 9月「ごきげん! 障害児の母ライフ～絶望が、わくわく・ルンルンに変わる話」小田多佳子氏 12月「発達障害とてんかんについて」田中順子医師 その他 8 回定例会他</p> <p>H17・3月「自己決定を引き出す雰囲気作り」谷口明広氏(愛知淑徳大学教授) 参加者 95名 4・5・6・7月 ハルヤンネ(奥平綾子)氏 連続勉強会①～④ 参加者 205名 9月 南港中央公園・パーベキュー広場にてパーベキュー(ワークショップ) 参加者 180名 11月「ソーシャルスキルトレーニングとコミック会話」腹巻智子氏(NPO法人それいゆ) 参加者 210名 その他、定例会等5回実施</p> <p>H18・3月「障害者自立支援法の概要」谷口明広氏(愛知淑徳大学教授) 参加者 73名 7月 ホットメールなにわの設立 (大阪市内で発達障害等に関わる活動をしている団体で作るネットワーク。主に情報交換を行い、理解者と支援者の輪を広げる活動を実施。19年9月現在・参加団体数 25 団体) http://hotmail-naniwa.sblo.jp/ 8月「自閉症の子どもたちへの支援」重松孝治氏(大阪府立藤井寺養護学校教諭) 参加者 84名 10月 南港中央公園・パーベキュー広場にてパーベキュー(ワークショップ) 参加者 195名 11月「自閉症の人へのコミュニケーション支援～PECSを使って～」 門真一郎氏(京都市発達障害支援センターセンター長) 参加者 167名 その他、定例会等8回実施</p>		
事業年度	1月 1日 から 12月 31日		
活動分野	※ 下表「活動分野別リスト」の番号をご記入ください。 1・11		

【活動分野別リスト】

1 保健・医療・福祉の増進	7 地域安全	13 科学技術振興
2 社会教育の推進	8 人権擁護・平和の推進	14 経済活動活性化
3 まちづくりの推進	9 国際協力	15 職業能力開発・雇用機会拡充
4 学術・文化・芸術・スポーツ振興	10 男女共同参画	16 消費者保護
5 環境保全	11 子どもの健全育成	17 市民活動支援
6 災害救助	12 情報化社会	

<p>貴団体の活動において、NPOならではの特性を活かしている点</p>	<p>これまで任意団体として活動してきた約5年間は、いわば会員向けの活動が中心であり、その中で地域への啓発活動等も同時進行で実施してきた。今後は発達障害に関心のある地域住民はもちろんのこと、多くの人が発達障害に関心を持つような企画を立案し、確実に実施していくことが必要であり、またNPOならではの特性として求められるだろう。当法人が任意団体の期間中に学び、実施し、展開してきた事業を、今後は広く地域に向けて発信していくこと。またこれまで学んできたノウハウを活かし、発達障害児者とその家族への支援・社会参加の事業を幅広く実施する中で、発達障害児者への直接支援の実施が可能となり、また障害児者の家族には、同じ思いを抱き、安心できる空間と時間、情報交換といった交流の場を提供していくことができるだろう。設立後、間もないNPO法人であるが、これまで会員向けに実施してきた活動を、広く地域住民へと幅を広げ、これまでと同様に啓発活動を続けることで当法人のNPOとしての特性が活かされれると考えている。</p>
<p>貴団体の活動を多くの市民に周知するためにやっていること</p>	<p>当法人ホームページでの広報。 啓発事業の中で、講演会・シンポジウム等を行う中で活動を紹介。 当法人のパンフレットを各区社協、教育機関、医療機関、親の会等に配布。</p>
<p>貴団体の活動における現在の課題</p>	<p>発達障害児は決して少ない人数ではなく、また発達障害に特化した相談機関や療育機関の資源が少ないことや専門家の人員不足もあり、当会の「ピアカウンセリング事業」「講師派遣事業」のニーズは高まる一方である。開始後まもない事業であるにも関わらず、2ヶ月先まで予約が埋まるという状況が慢性的に続いており、緊急性の高いケースであっても、迅速に対応できない状況である。また当会はこれまで、地域への啓発活動、当事者を含めた家族への余暇支援活動、発達障害・知的障害に関わる団体や職員とのネットワークの構築、これらを主として活動してきた経過もあり、ニーズの高いピアカウンセリングと講師派遣の事業に関しては、現在は1名のみで対応している。言い換えれば、そのノウハウや専門知識を持つ職員が1名しかいない、という課題を抱えており、その職員が業務に支障をきたした時(体調不良時など)は、事業を代行できる人材が全くいない。そして当事者を含めた余暇支援活動においては、年々参加者が増加し、ボランティアの人数確保の業務に追われ、それに時間を費やし、ボランティア参加者への障害に関する基礎講座等の実施が困難になってきている。ニーズから考察して、また当会の課題として、ピアカウンセリング事業の業務を実施できる人材育成と、発達障害等の知識と支援技術を備えたボランティアの育成が、大きな課題であると認識している</p>
<p>貴団体の活動の将来展望</p>	<p>① 発達障害児者とその家族への室内余暇活動を通しての社会参加の促進 当法人の事務所の設備を充実させ、調理活動、パソコン(インターネット)教室、製作活動(廃油を使った石鹸作りなど)、おもちゃ図書館など、家庭生活での余暇となりうる事業も行き、生活力を養い高めると同時に、社会参加が困難な当事者に継続した活動の場を提供して、家族には孤立した子育てを防ぐ事業を実施すること。</p> <p>② 発達障害のより専門的な障害種別(知的障害を伴う自閉症、アスペルガー症候群等)の相談・助言・支援の窓口の設置・・・専門知識の持つ人材育成事業に展開できればと考えている。</p>
<p>当基金に登録を希望する理由</p>	<p>当法人は大阪市を中心に活動しており、大阪市の市民や企業の皆様の資金で運営されている貴基金への登録を希望します。当法人が助成対象となった際には、大切に、かつ有意義に使わせていただくことで、大阪市内に住んでいる発達障害児者とその家族への豊かな暮らしへと帰結できるよう事業を展開し、そして当法人の活動地域である「大阪市」の福祉の増進に寄与していきたいと考えております。 また子育て世代の親にはどうしても資金、労力面(物理的、経済的、労働力的)に困窮することも多く、当法人への皆様の応援を望んでいます。</p>
<p>貴団体が当基金をPRするためにできること</p>	<p>当法人ホームページでの広報。 当法人が実施する事業(講演会等)での、チラシやレジュメへの貴基金の事業についての掲載。 ホットメールならわ http://hotmail-naniwa.sblo.jp/ /定例会での広報。</p>
<p>市民に対するPR</p>	<p>※市民に向けPRメッセージをお書きください。 当法人は、発達障害に関する事業を行っている団体です。発達障害は決して特別な障害ではありません。とても身近な障害です。障害の有無に関わらず、安心して暮らしていけること地域づくりを目指しています。あたたかい眼差しで見守っていただければ幸いです。</p>
<p>確認事項</p>	<p>この申請書に記載する事項に間違いありません。</p> <p>代表者氏名 是澤 ゆかり (氏名自署の場合は印不要)</p>